

ホットな
福祉情報誌

はあとふる ふくしま

2024

2月

No.325



特集

地元根差した被災者支援を考える

～令和5年9月大雨による災害ボランティアセンターの現場から～

シリーズ 【未来へつなごう“ふくしま”から】

社会福祉法人とNPOの法人連携で見えてきた
福祉の新しい未来

2023年度シリーズ ふくしまのみらい

大きく振ったちいさな手
また会えるかな？

みんな笑顔で見送ります
(二本松市・あだたら保育所)



地元根差した 被災者支援を考える

～令和5年9月大雨による災害ボランティアセンターの現場から～

昨年9月8日、台風13号による記録的な大雨で被災したいわき市では、約1,700棟の大規模な浸水被害が発生しました。これを受けて、いわき市社会福祉協議会（以下、「いわき市社協」）は9月10日にいわき市災害ボランティアセンター（以下、「いわき市災害VC」）を立ち上げました。

社会的弱者と言われる人々は、被災することで抱えている生活課題が深刻化、長期化する傾向にあります。そのような中で、多様化する被災者のニーズに寄り添った支援を行うためには、災害ボランティアセンターの進め方や支援方法がより重要になっています。ICTの活用、地元NPOとの協働運営、被災者宅訪問などを中心に活動を展開し、12月8日をもって閉所したいわき市災害VCの活動を関係者の皆さんに振り返っていただきました。



素早い支援活動が被災地の復旧を早めますが、コミュニティの再生には継続支援が大切です。

■ 日頃の連携・業務を素早い支援活動に つなげられた

令和5年9月8日から9日にかけて発生した台風13号による水害に対して、いわき市からの要請により、水害発生から2日後の10日にいわき市災害VCを立ち上げ、翌日から活動を開始しました。日頃から連携していたことによって、災害発生後に



9月11日、受付初日から60名のボランティアが参加した。



いわき市社協
事務局長
しのはら ひろたか
篠原 洋貴さん

いわき市、いわき市社協、災害支援ネットワーク*iwakai*（以下、「DSN」）、技術系ボランティア※1との最初の情報共有会議で各代表が顔を合わせ、今後の支援に関する課題について事前確認できたことで支援活動をスピーディーに進めることができましたと思います。

災害VCを運営していくにあたり、ICTを活用して、ボランティアの受付、集計作業などを行うことで業務軽減を図りました。日頃の業務でも使用していたサイボウズの*kin-tone*「災害VC運営支援システム」を活用し、被災者から寄せられたニーズをデータで管理・共有することで、スタッフ間のスムーズな情報共有や迅速

な支援活動につなげました。また、Facebookでの情報発信では、アレンジを加えながらブラッシュアップして発信することができました。ボランティアに来てくださる方への感謝の気持ちを込めた分かりやすい記事は、写真とともに現場の雰囲気や伝わってきたと多くの方から評価いただいています。



雨模様の中、床上浸水した住居で片付けを行うボランティア。

■ 先を見据えた支援ができるよう スキルアップが必要

被災地域を対象とした戸別訪問活動では、2回以上訪問することで、支援の漏れを少なくすることができました。一方課題としては、潜在化している被災者の困りごとや生活全般を、通常よりも多くの福祉的視点を持って見ていく必要があったと感じています。

災害VCを閉所した現在、被災者支援は被災直後のような緊急的なものではなくなっています。しかし、被災者支援は災害VCの閉所とともに終わるのではなく、ここから先が大事になってきます。地域のコミュニティを再生していく上で、被災家屋に住む住民の生活はどうなっているのか、支援はどこまで進んでいるのかなどの現状を把握し、被災前の生活に戻すにはどうしたらよいかを考えていかなければいけません。今回の災害VCの経験を踏まえて、当初から先を見据えた支援ができるよう、職員一人一人がスキルアップしていくことが大切だと考えています。

※1 技術系（床下、屋根上、重機など）の専門的な知識を有し、被災地での支援経験が豊富な団体。

参加を希望するボランティアは、必要項目を入力し事前登録を行う。

お名前 * 性別 * 年齢 * 活動場所 *

団体名 団体人数 (含む)

電話番号 メールアドレス

所属団体 市町村

活動開始 * 参加している 参加していない

連絡事項 (250文字以内)



入力されたデータを集計し、1日あたりのボランティア数の事前予測が可能。

ICTを積極的に活用し、タイムリーな情報発信ができました。

■ kintoneを活用して被災地主導で行うボランティア募集

災害VCを立ち上げるにあたって、サイボウズ社のkintoneを活用して、ボランティアに来てくださる方の手間を掛けないように事前にウェブで申込みできるシステムを導入しました。それによって、活動当日にボランティアの皆さんをスムーズに活動先へ送り出すことが

kintoneの活用経験を活かし、災害VCでICT部門を担当しました。



いわき市社協
生活・就労支援センター長
ふるかわ じゅんこ
古川 純子さん

できました。運営側としても、事前に活動者数を把握できるため、活動の準備がしやすい等、限られたスタッフの中で効率よく業務運営ができたと思います。

迅速で丁寧な情報発信でいわき市の今をアピール

来てくださるボランティアに対して、いわき市の現状をお知らせする目的で活用したのがFacebook

また、ボランティアに来てほしい住民のニーズのデータ管理も同時に行い、申込者とのマッチングや戸別訪問といった支援に役立てることができました。kintoneは2019年の台風19号災害の際にニーズ管理で使用して以降、通常業務を通して活用していましたが、どの職員も使用できるようにマニュアルも作成し、よりスムーズに運営することができました。



災害VC立ち上げ後1週間経たずに迎えた3連休最終日のFacebook。ボランティアへの感謝の気持ちや今後の協力依頼を丁寧に伝えるよう心掛けた。

です。当時は茨城県や千葉県なども被災しており、そのような中で、いわき市の情報をいかに知ってもらうかが重要と考えました。そもそものいわき市とはどんなところなのか、被災者の状況はどうなっているのかなど、災害VCの開設中ほぼ毎日発信しました。いわきに親しみを持ったボランティアに来てもらいたいという思いから、どんな活動を行っているのか、天気予報やその対策など、ラジオのパーソナリティーのように一人一人に呼びかけられるような意識で記事を掲載しました。

基本となる型が決まるまで悩みましたが、「いいね」や「シェア」が増え、災害VC内外でも反響が広がり少しは役に立ったかなという気持ちです。



ショベルカーを使い泥の撤去作業を行う技術系ボランティア。

DSNIは、いわき市災害VCで市社協とNPOや技術系ボランティアをつなぐ役割を担いました。また、被災者向けのサロン活動を運営し、いわき市やいわき市社協と弁護士、技術者などの専門家が協働すること、被災者との信頼関係を速やかに築き、そのニーズに寄り添うことができました。一方で、今回は災

今後は
災害時に協働できる
地元の支援者・団体を
もっと増やして
いきたいです。



災害支援ネットワーク
Iwaki(DSNI)
会長
まのめ かずひろ
馬目 一浩さん

■協働により
築けた住民との信頼

INTERVIEW
3

官民の協働運営で住民のニーズに
寄り添うことができました。

害VCを中心に活動しましたが、今後は地元他団体ともネットワークを広げて関係各所へのアプローチ等を行えば、よりスムーズな支援ができるのではと感じています。

■心強かった
DSNIとの連携

災害ボランティア
センター長として、
皆と協力して災害VCを
運営しました。



いわき市協
地域福祉係長
しげむら ゆき
重村 友紀さん

全国からたくさんのボランティア団体等がいわき市へ支援に来ていただきましたが、活動先の調整や地域とのつなぎ等、常にDSNIに相談できるのは心強かったです。災害VCで対応しきれないニーズも含め、困りごとの相談に乗るサロン業務に携わってもらえたのもありがたかったです。今後はDSNIをはじめ、平時からの多様なネットワークを活かして、災害時には被災者に寄り添った支援ができるようにしていきたいです。



戸別訪問活動の際にはチラシも配布して、災害VCへの要請を呼びかけました。

■災害ニーズだけでなく
福祉ニーズを把握できる
住民の中には、いわき市災害VCの存在を知らない人、支援を遠慮する人などが多くいると思われました。その人たちに対して社協側からの積極的なアプローチが必要だと感じ、被災者宅を回る戸別訪問活動を行いました。
泥出し、片付けという災害ニーズだけでなく、健康面や生活面、社会活動などの福祉的ニーズを把握でき

被災者の状況や
思いに寄り添う支援を
目指し、戸別訪問
部門を担当
しました。



いわき市協
主査
おき よしあき
尾木 義彰さん

ましたが、訪問スタッフは市社協職員のほか、他市町村社協からの応援職員などで構成。メンバーが日々入れ替わるため、被災者の状況把握の仕方に個人差がありました。そこでスタッフ向けに市社協職員でロールプレイを行う映像を作成するなど、聞き取り内容や支援方法の統一化を図ることに努めました。

区長さんや民生委員さんも独自で迅速に被災者の状況を確認してくださっていたため、様々な情報を提供いただくことができました。市社協としての戸別訪問活動と初動の段階から連動させていくためにも、日頃からの地域との連携をより強化していくことが大切だと感じました。

INTERVIEW
4

一軒一軒回る戸別訪問活動で
住民に寄り添った支援を行いました。



福祉の新しい未来

社会福祉法人ほっと福祉記念会／特定非営利活動法人
スケッチブック／特定非営利活動法人オハナ・おうえんじやー

特定非営利活動法人
オハナ・おうえんじやー
本宮市
TEL 0243-24-8175
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~ohana-ouenzyar/>

取材協力

特定非営利活動法人
スケッチブック
本宮市
TEL 0243-33-1512
<https://sketchbook.or.jp>

社会福祉法人
ほっと福祉記念会
郡山市
TEL 024-983-1161
<http://www.hotfukushi.jp>

本気で話し、本気で
法人を変えていくために

「私たちは福祉の世界で喜びも苦
労も分かち合った20年来の付き合い
になります」とほっと福祉記念会
の鈴木さん。その隣で特定非営利
活動法人スケッチブックの石原さん、
特定非営利活動法人オハナ・おうえ
んじやーの藤本さんも笑みをこぼ
します。

法人連携が本格的に動き出した
のは3年前。従来の仕組みにとら
われず新しいことを始めようと、3
法人の合同研修をはじめ、県外の
福祉施設の視察などを実施してい
ます。「合同研修は法人間の職員交
流にもなり、お互い刺激がありま
す」と石原さん。加えて、法人連携

は、就労支援、生活介護、若者サ
ポートなど、それぞれの法人が行
う業務とは別の角度から福祉の課
題を考えるきっかけにもなっている
といいます。

「形ばかりの連携ではなく、私た
ち3人がそれぞれの法人の監事や
理事として参加参画し、経営会議
や現場会議で積極的に発言してい
ます。本音で何でも話して、本気
で自分たちの法人を変えるための



写真左から、特定非営利活動法人スケッチブック理事長 石原寛之さん、社会福祉法人ほっと福祉記念会 業務執行理事 鈴木康弘さん、特定非営利活動法人オハナ・おうえんじやー 理事長 藤本 真さん

「第一歩です」と藤本さん。互いの仕
事は異なっているも人材育成や支援
の質は変わらない。1法人では難し
いことも3法人ならできることがあ
ると、法人連携のスケールメリット
を分析しています。

法人連携による 被災したいわきの支援

昨年9月8日に発生したいわき
市の記録的大雨。約1700棟の
住宅が浸水し、県内外から多くの
ボランティアが駆けつけました。「当
法人のある郡山市も水害を経験し
たことがあり、ボランティアの皆さ
んに助けてもらいました。被災地の
大変な状況がわかるので一人でも多
くの職員を現地に連れて行こうと
思っ」と鈴木さん。3法人は即座
に行動を起こし、延べ7回にわたっ



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)

電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

市内外から通う利用者の皆さまに 安心して快適な送迎サービスを

赤い羽根共同募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」として、地域の福祉のために役立てられています。福島県共同募金会にお寄せいただいた赤い羽根共同募金は、福島県内の福祉活動を支援するために役立てられており、地域福祉のための大きな原動力となっています。

今月号では、皆さまの温かいご寄付により行われた活動を1件ご紹介します。



特定非営利活動法人サポートクラブキャロット

キャロット八山田 (郡山市)

(助成事業名: 送迎用車両整備事業)

私たちは障害者総合支援法に則り、就労継続支援B型事業所キャロット八山田として利用者の自立支援を促進するためのサービスを提供しております。当事業所の提供サービスのひとつに送迎業務があり、郡山市内は勿論、本宮市、三春町と広範囲の地域から利用者を送迎しておりますが、開所から10年を経過し、走行距離が15万キロを超え更新の時期を迎えておりました。私共の財源は、障害サービス費のみで余裕がなく、この赤い羽根共同募金の助成金に応募した次第であります。

おかげさまでこのたび新しい車両を購入することができ、利用者の皆さまに安心して快適な送迎ができるようになりました。大変ありがたく感謝申し上げます。

1947年の「国民たすけあい運動」から始まったこの赤い羽根共同募金の「困ったときはおたがいさま」の気持ちを、私たちも大事に持ち続けていきたいと思ひます。募金を下さった皆様、本当にありがとうございました。



写真提供

- ・いわき市社会福祉協議会
- ・ほっと福祉記念会

でボランティア活動を行いました。最高気温が30度を超える中、圧倒的な泥の量を前に終わりの見えないゴミの運び出し、想像を超える復旧作業に、職員の中には人生観が変わった人もいたのだとか。「その職員はいわき市から戻った後、別の地域の除雪ボランティアに個人で登録したと聞きました。その話を聞いたときは嬉しかったですね。被災地では、被災直後だけでなく長期にわたる支援が必要とされます。福祉に携わる者として災害支援は知っておくべき」と鈴木さん。

法人連携によるボランティアは、普段の業務とは異なる福祉的なニーズを体得する機会にもなっているようです。今後のビジョンを3人に伺うと、「法人連携は拡大すればよいというものではなく、ゆるくつながりながら継続していくことが大事。現在は幹部クラスが中心となって法人連携を進めていますが、いずれは中間管理職、一般の職員が各法人を横断できるような仕組みづくり、仕掛けづくりをやっていききたいですね」と話してくれました。

県社協からのお知らせ

福利厚生センター（ソウェルクラブ）加入のご案内

施設・事業所
経営者のみなさま

福利厚生センター（通称：ソウェルクラブ）では、社会福祉法に基づき、「社会福祉事業従事者の福利厚生の増進を図る」ことを目的に厚生労働大臣から指定された社会福祉法人です。健康、生活、余暇、啓発など多様な福利厚生サービスを提供し、福祉の職場で働く方々の福利厚生をサポートしています。

社会福祉事業、有料老人ホーム、医療系の介護保険施設などの介護保険事業を経営する法人が対象です。魅力ある職場づくりや職員の確保・定着につなげるためにも、ぜひご加入ください。

主なサービス例

慶事お祝い

結婚・出産祝品贈呈、子ども入学祝品贈呈 など

万一の際

会員（配偶者）死亡弔慰金、災害見舞金、入院手術見舞金 など

健康管理

健診費用助成、24時間電話健康相談 など

会員交流事業

県内会員のための旅行等を企画し、費用を一部助成します。

会員交流事業 実施例

- アクアマリンふくしま入館チケット幹旋 一人500円
- ディズニーリゾート1泊2日の宿泊費用 一人25,000円 ※平成30年度時
- ディナーパーティー 一人3,500円 ※令和元年度時

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2～5年度は旅行企画を中止しております。

クラブオフ

（インターネットサイトによる施設利用割引提携）

全国の宿泊施設、遊園地、水族館、映画館などのレジャー施設、レストランなどの飲食施設など幅広い分野が優待料金で利用できます。対象施設は全部で75,000か所以上あります。

Q 加入できる施設や職員は？

A 社会福祉事業などに携わる施設・事業所の職員です。

Q 費用はどのくらいかかりますか？

A 掛金は会員種別によって2種類あります。

第1種会員（主に正規職員）……職員一人当たり毎年度1万円（一月833円）

第2種会員（主に非常勤職員）……職員一人当たり毎年度5千円（一月417円）

※第2種会員は一部利用できないサービスがあります。詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ先

福島県地方事務局：福島県社会福祉協議会 総務企画課 電話 024-523-1251
FAX 024-523-4477 または、福利厚生センターホームページ <http://www.sowel.or.jp/>

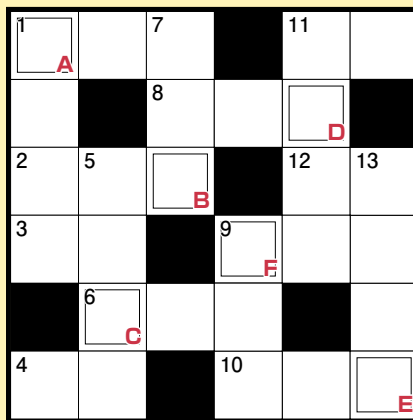
クロスワードにチャレンジ！

▶ ヨコのカギ

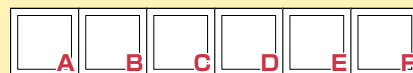
- ① ⇨ 建前
- ② 元素記号はS。湯の花の主成分。じつは無臭
- ③ 1000 kg
- ④ ピコ太郎「PPAP」の歌い出し♪ I have a ○○
- ⑥ ⇨ 男子
- ⑧ ヨコ⑩には無い留め具
- ⑨ 電力を表す単位
- ⑩ 日本の伝統的な衣服
- ⑪ 日。サービス○○。○○サービス
- ⑫ 暑かったり、ヒヤッとしたときに流れます

▼ タテのカギ

- ① ⇨ ブラック
- ⑤ 足を向けて寝られない相手
- ⑦ 遅刻の原因
- ⑨ トイレはしゃがんでするタイプ
- ⑪ 単位はボルト
- ⑬ 陶磁器のこと。愛知県のやきものが語源



全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



正解者の中から
抽選で3名に
プレゼントが当たる



今日のプレゼント

NPO法人コーヒータイム
（二本松市）

アクセスホームさくさ「ラスク」
とのコラボ商品セット

当選者の発表は商品の発送を
もって代えさせていただきます。

応募方法

ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切

令和6年3月15日（金）

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの
ご応募は
こちら！



／ 多数のご応募ありがとうございました ／

1月号の
正解

「ウリユウワコ」（瓜生岩子）

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

12月号に寄せられた読者のおたよりから

赤い羽根でささえあいの記事を読みました。寄付金が一入暮らし高齢者の方への配食やこども食堂の運営に役立てられていると知り、寄付金に協力したいと思いました。（66歳 女性）

子どもが小さい頃にキザッニアでお仕事体験をしましたが、遠くてなかなか行けないので、出張で来ていただけるのはありがたいですね！（53才 事務）

写真も多く明るい色合いでとても読みやすいです。活動や各分野の取り組みがよく分かり、勉強になります。（32歳 会社員）

編集後記

2月号はいわき市での災害支援を振り返りましたが、今年も年始早々に能登半島で大きな地震が発生するなど心が痛む出来事が多く起こっています。そのような中で、募金をはじめそれぞれの場所でも自分ができることをすること、被災された方だけでなく私たちも心と身体を健やかに保つことを大切にしていきたいですね。

（総務企画課 本間智絵）